

宇部市総合計画審議会教育文化分科会（第2回）議事録 【要旨】

日 時 平成21年1月16日（金）10:00～12:00

場 所 市役所2階 第1会議室

出席者（委員）玉重彰彦 中野リエ子 園 絹枝 三原節子
（事務局）総合政策部次長 小川 徹 新総合計画策定室長 廣中昭久
同室長補佐 河村真治 同室主査 篠原 功
（専門部会）教育次長 福重和巳 教育次長 杉本繁雄
学校教育課長補佐 森島正信 学校教育課長補佐 中村達実

1 教育文化分野における現状把握及び今後の方向性について

<学校と地域の結びつきについて>

（委員） 学校が、子供たちが地域行事への参加状況を把握するとともに、教師が地域の行事に積極的に関わることが必要である。

学校と地域との関わりがないと、地域の協力が得られにくい。また、教師が地域の行事に参加すれば、地域での子供の状況も分かり、地域の話題が学校での子供たちとのコミュニケーションにも役立つ。

（専門部会） 教職員も含めた地域の行事への参加の重要性については認識している。子供たちは、学校で見せる表情や態度とは違うものを地域では見せる。また、学校も、地域でどういう人が保護者以外に子供たちを支えてくれるのかを知ることでもできる。各学校にも積極的に地域の行事に参加するよう指示はしているが、強制はできないので、実際の参加はまだ少ない状況である。

現在は、学校も多くの問題を抱え、学級崩壊の問題一つとっても、学校だけで対応できる問題ではない。流れが変わってきて、学校の意識改革も少しずつ進んでいる。やれるところから、徐々に地域とともに取り組んでいきたい。

<子供の地域行事への参加について>

（委員） 市民意識調査によると、青少年の健全な育成を図る活動について、重要度が高く満足度が低くなっており（第2回審議会資料3：18頁）、主要施策進捗状況調査においても、地域活動の参加が減少傾向にある（第2回審議会資料1：7頁）。

特に中高生の参加が難しい状況がある。行政がどうこうするというよりも、市民が自分たちの問題として考える必要がある。中高生でも機会があれば参加したいと思う子がおり、実際に体験すると次も参加したいという子もいるので、待っているだけではなく、声かけや場作りが大切である。

子供が期待するようになると、関係機関や地域住民にもやりがい生まれる。

<子供が遊べる環境について>

（委員） スポーツ少年団の関係で、子供たちが地域の行事に出にくい状況もあるが、子どもがボール遊びなどをのびのびできる環境がなく、スポーツ少年団に入らなければボール遊びができないような現状があることも影響があるのではないかな。

また、責任問題が強調され、不測の事態をおそれ、子供たちが公園で遊べなくなる、子ども会で役員のなり手がなくなるなど、子供たちの遊べる環境が悪化している。遊び場の確保は子供たちの社会関係の習得の面でも大切だ。

<公教育の充実について>

- (委員) 授業時間が減って、授業についていけなくなり、授業中に教師の話が聴けなくなり、学校からも離れていく子供がいる現状に対して、放課後支援ボランティアなどの活用が期待される。
- (専門部会) 新しい制度ができて、担い手の確保の問題がある。本市でどういう運用が適切なのかをよく検討する必要がある。
- (委員) 公教育そのものの充実も大切である。週休2日制、安全確保の困難性の増大、教師の繁忙等の理由はあるにしても、学校教育が従来できていたことができなくなって、公教育の力が低下している現状がある。
- 活力あるまちづくりに少子高齢化を防ぐことが大切だが、そのためには子供が充実した時を過ごすことができるまちになる必要がある。子育てをする母親たちは、保育所を含めた公教育が充実したまちに住みたいといい、実際に住まいを選んでいる。本市も若い子育て世代にとって魅力あるまちになるべきだ。
- (委員) 学校教育の機能不全には、家庭教育の機能不全が影響している。教師の負担が増大していることも考えなければならない。

<芸術文化について>

- (委員) 市民意識調査によると、地域文化の継承と創造の分野の重要度が総じて低い(第2回審議会資料3:19頁)。
- 彫刻について、市はかなり力を入れてお金もかけているが、評価が低い。現にこれだけの蓄積があるので、もっと彫刻を活かす方法を考えるべき。
- (委員) ボランティアで彫刻清掃の参加者が、掃除をすることで愛着が湧いてきたという感想がある。市民が関わる機会をつくることで関心が高まるのではないか。
- (委員) 彫刻が拡散して、核となるようなものがない。常盤公園を核にできないか。
- (委員) 常盤公園を実際に知る人の評価は、県外の間人も含めて高い。宣伝周知に工夫が必要ではないか。公園までの道路案内も不親切で分かりにくい。
- 市の玄関となる空港で来訪者にインパクトを与える工夫ができないか。また、本市を通過する道路運転者にも分かるような美術館の催し物の案内板とか。
- (委員) 主要施策進捗状況調査において、地域文化の継承・創造事業の進捗率が低い(第2回審議会資料1:8頁)。
- (事務局) 予算的な問題もあり、更に進捗が遅延し現行計画期間では終了しない可能性がある。次期計画で改めて取り扱いを検討する必要も出てくる。

※次回開催 平成21年1月29日(木) 15:15～ 市役所第4会議室